



袋井あやぐも学園
袋井市立袋井中学校だより



— 自主・協同 —

～夢を追い続ける生徒の育成～

令和5年9月29日発行

幼小中一貫カリキュラムにより自主（Iの力）と（Weの力）を育成する学園

今年度の学力・学習状況調査(全国版・袋井版)の結果を受け、本校で結果を分析し、本校の生徒に見られる表れを中心に絞って以下に記述しました。

全国平均正答率を「☆☆☆」とした場合の本校生徒の正答率
 高い☆☆☆☆☆ やや高い☆☆☆☆ やや低い☆☆ 低い☆

全国学力・学習状況調査結果（3年生）

国語	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
袋井	☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆
数学	数と式		図形	関数		データの活用
袋井	☆☆☆		☆☆☆	☆☆		☆☆
英語	聞くこと		読むこと		書くこと	
袋井	☆☆		☆☆☆		☆☆	

袋井版学力・学習状況調査結果（2年生）

国語	言語・情報・言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
袋井	☆☆☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆
数学	数と式	図形	関数	データの活用
袋井	☆☆	☆☆	☆☆	☆

各学年における成果と課題及び、指導の改善点

学年	教科	成果と課題	指導の改善点
3年	国語	○「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高く、古典の学習に成果が見られた。 ●漢字を書いたり、自分の考えを文章で書き表したりする基礎的な内容の正答率が低かった。	・タブレットで打つことが増えた半面、相対的に漢字で書いたり、文章で書いたりする機会が減った。そのため、学習のまとめや、振り返りを記述する機会を設け、国語の基礎的な学力の定着を図る。
	数学	●「関数」や「データの活用」の正答率が低かった。 ●目的に応じて数学的に説明することが苦手で、無回答が目立った。	・「関数」など、難易度が高い問題には挑戦しない（解答しない）傾向が見られるため、段階的に理解できるよう、生徒の実態に即した授業づくりに努める ・「データの活用」について、他の教科でも取り組む。
	英語	●「聞くこと」「書くこと」の正答率が低かった。 ●理由を書いたり、文章を書いたりするような、記述式の回答で無回答が目立った。	・英文を書く活動を増やしていく。 ・生徒が書いた文章に対して、スペル・文法・内容の点からチェックし、それらを本人にフィードバックしながら基礎的な英語力の向上を図る。
2年	国語	○「読むこと」「書くこと」では、全国の正答率をやや上回る部分もあり、実力が付いてきた。 ●「話すこと・聞くこと」では、聞き取った内容から回答を選択する問題の正答率が低い。	・授業において、文章構成を考えて書いたり、書いた文章を自ら推敲したりする活動を継続していく。 ・他者の考えを聞いたり、それらに対する自分の考えを表明したりする活動（話す活動）に積極的に取り組む。
	数学	●全体的に正答率が低く、数学に対する苦しさが見られた。 ●「関数」「データの活用」の正答率が低く、3年生と同様の傾向が見られた。	・授業内で計算問題の反復練習に取り組むなど、数学の基礎的な学力の定着を図る。 ・「データの活用」については、データの読み取りや、数値の関係が理解できているか確認しながら授業を進める。

生活習慣や学習環境に関する生徒質問紙調査(2・3年生)の顕著な結果

※[]の数値は、全国調査と比較した「はい」「どちらかと言えば『はい』」と回答した生徒の割合

<○本校生徒のよいところ>

・将来の夢や目標を持っている	(3年) [+ 7.8%]
・読書が好き	(3年) [+10.3%]
・今住んでいる地域の行事に参加している。	(3年) [+28.4%]
・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	(3年) [+ 8.5%]
・自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。	(2年) [+11.7%]
・授業で習ったことは、その日のうちに復習している。	(2年) [+17.0%]
・自分には、先生や友達からほめられるような得意なことがある。	(2年) [+ 7.4%]
・友達の意見に質問したり、いいところをほめたりしている。	(2年) [+ 7.6%]

<●本校生徒の課題>

・家で自分で計画を立てて勉強をしている。	(3年) [- 7.1%]
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	(3年) [- 5.4%]
・学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	(2年) [- 4.5%]
・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある	(2年) [- 1.9%]

この報告は、今年度の学力・学習状況調査(全国版・袋井版)の結果を受け、本校で結果を分析し、本校の生徒に見られる表れに的を絞って記述しています。

まず、学力調査の結果から、国語科・数学科・英語科の課題が見えてきました。3年生では、国語科の「言語の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」、数学科の「関数」「データの活用」、英語科の「聞くこと」「書くこと」に課題が見られました。2年生では、国語科の「話すこと・聞くこと」、数学科では「数と式」「図形」「関数」「データの活用」と、全ての項目について全国の平均正答率を下回る結果となりました。今後、これらのことに課題意識を持ち、対策に取り組んでいきます。また、学年・教科を問わず課題となっている、自分の考えをまとめて書いたり、データを活用したりすることについては、他教科でも力を付けることができます。例えば、授業の終わりに、その時間で学んだ内容をまとめたり、自分自身の取組を振り返ったりする活動に丁寧に取り組むことで、書く力の定着を図ります。さらに、社会科や理科でもデータを活用しながら学習を進める場面は多々あります。今年度の学力調査で浮き彫りとなった課題を教職員で共有し、授業や教科だけでなく、学校生活の様々な場面からアプローチしていきたいと考えています。

次に、生徒の意識調査については全国平均と比べて、肯定的に回答している項目が多いということが分かりました(記載しているのは一部抜粋です)。これは、袋井あやぐも学園が小中一貫教育として推進してきた「ボイスシャワー」と「聞く指導」が結実し、生徒の自己肯定感や自己有用感が醸成されてきた結果ではないでしょうか。今後も教職員が積極的に生徒の良いところや、頑張っているところを本人にフィードバックしていきます。半面、課題となっているのは「学習」についてです。質問紙調査の結果からは、まだ、学ぶことの本質的な楽しさに気づいていなかったり、分からないところをそのままにしてしまったりする傾向が明らかとなりました。今後も生徒の学ぶ意欲を喚起するような授業づくりに努めていきます。ぜひ、御家庭でも生徒の抱く学習に対する不安に寄り添っていただき、じっくりと粘り強く取り組めるような声掛けをお願いいたします。学校と家庭が共に生徒の成長を支えていけるよう、御協力をお願いいたします。

今後も、中学校だけではなく、袋井あやぐも学園内の幼稚園・こども園・保育園、小学校とも課題を共有し、連携しながら課題の改善に向けて進めていきます。御家庭とも連携・協力をしながら改善をしていきたいと思っておりますので、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。